

今回は…【京都の治水と禹王<sup>うおう</sup>】に関する図書をご紹介します。

安貞2年(1228年)、大雨で鴨川が氾濫した際、対処を任された勢多為兼が、突然現れた僧の言う通り、鴨川東岸に弁財天の社と夏の禹王の廟を建てたところ、水がすぐに引いたという。  
『雍州府志 上』(岩波文庫)より

禹王は黄河の治水に成功した中国の伝説上の英雄で、夏王朝の始祖とされています。近年日本全国の水害多発地域に、治水神として禹王の碑が数多く設置されていることが分かってきました。ここでは京都の水害対策と、禹王碑に込められた人々の願いを探る資料を紹介します。

◆『日本禹王事典』(植村 善博ほか/著 古今書院)

請求記号 R/517.2/ニ

禹王碑をはじめとした禹王に関連する遺跡 165 件について、地図・来歴・写真を掲載。京都からは『雍州府志』に見える〈夏禹廟〉や、保津川を開削した角倉了以を讃える〈黄檗高泉詩碑〉などが紹介されている。各遺跡に参考文献一覧あり。

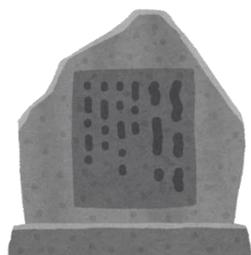


葛飾北斎「夏の禹王洪水を治」  
(『和漢絵本魁初篇』、東京大学駒場図書館蔵)を改変

◆『禹王と治水の地域史』(植村 善博、治水神・禹王研究会/著 古今書院)

請求記号 L/517.2/ウ

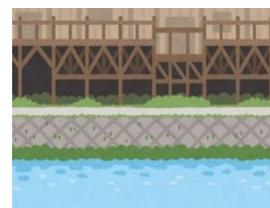
日本だけでなく中国や韓国における禹王信仰と治水の関わりも詳細に論じる。京都に関しては、鴨川東岸の禹王祭祀の伝承、黄河が盆地に流れ出る場所の地名「禹門」にちなむ大徳寺・知恩院境内の門などについて記述。



◆『京都の治水と昭和大水害』(植村 善博/著 文理閣)

請求記号 L/517.2/ウ

鴨川・桂川・宇治川・巨椋池などの水害史・治水史をそれぞれまとめており、近現代までの府南部の治水について調べるのに便利。特に近代京都最大の自然災害である昭和10年豪雨については被災状況やその後の鴨川改修を詳しく記述している。



◆『平安京の災害史』(北村 優季/著 吉川弘文館)

請求記号 L/210.36/キ

平安時代以降の京都における災害を、平安京(京都)という都市の性質の変化から捉える歴史書。水害だけでなく、火災や疫病についても記述。華やかである一方、人口密集地であるがゆえに災害に対して脆弱だった平安京を知ることができる。



この他にも、関連する図書を所蔵しています。  
京都コーナーには【平安京関連図書コーナー】もあります。  
貸出・閲覧や、調べもののお手伝いをご希望の方は、  
中央図書館 2 階・参考図書室へお越しください。

